



ひょうご 農業委員会女性ネットワーク だより

編集：ひょうご農業委員会女性ネットワーク

発行：一般社団法人 兵庫県農業会議

ひょうご農業委員会女性ネットワーク 令和元年度の活動概要

(1) 県内交流研修会(9月)

神戸市の三宮研修センターで9月3日、令和元年度第1回「女性委員交流研修会」を開催し、県関係者を含め、29人が出席しました。

県農業会議が人・農地プランの実質化における委員の役割や、はじめの一步運動について説明したほか、全国農業新聞の普及について女性委員の優良取組事例を交えて協力を要請しました。



交流研修会で事例報告する松元委員

また、松元けい子委員(新温泉町農業委員会会長)が「えごまを中心とした女性農業委員としてのこれまでの活動」と題して講演をし、耕作放棄地の有効活用や獣害対策、地域活性化といった活動事例を報告しました。

全体討議では、地域混合のグループに分かれ、それぞれの委員会での取り組み事例や委員としての日常業務で困っていることなどについて意見を交換。「女性として委員会活動にどう取り組めばいいか悩んでいる」、「各市町の委員会で婚活や特産品のイベントをしている話があった。いきいき活動することが大事に感じた」など、様々な意見が出ました。

2月28日に神戸市のラッセホールで開催する予定だった第2回「女性委員交流研修会」は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、開催を中止しました。

(2) 東海・近畿ブロック女性の農業委員会研修会に参加

11月28日、京都市のメルパルク京都で「令和元年度東海・近畿ブロック女性の農業委員会研修会」が開かれ、全体で168人、本県から12人が参加しました。

全国農業会議所が農地利用の最適化活動における女性委員の役割につ



東海・近畿ブロック女性の農業委員会研修会の様子

いて説明したほか、「にいがた女性農業委員の会」の笠原会長が、地域内で実施した意向把握のアンケートの重要性、家族内で今後の農業経営について話し合うことが大事だという活動事例を報告しました。

続いて、ワークショップでは「自分の住む地域や地域の農業がどうあってほしいか」などについて意見交換しました。参加者からは「とても参考になった」という意見のほか、「たくさんの委員が元気で明るい発言をし、明日からの活力になりました」という感想もありました。

(3) 女性農業委員登用促進研修会に出席

令和2年1月8日から9日、東京都の主婦会館で令和元年度女性農業委員登用促進研修会が開かれ、大西会長と高尾副会長が出席しました。

研修会では、農業ジャーナリストの榎田みどり氏が「女性農業委員が増えれば農業委員会が変わる」と題して講演したほか、榎田氏をコーディネーターに全国農業委員会女性協議会の横田会長（埼玉県）と滋賀県湖国女性農業・推進協議会の池田会長、鳥取市農業委員会の濱田会長によるパネルディスカッションを実施。「農村における女性登用の促進」について、それぞれの取り組みやアイデアを話しました。

会場からも、広島県の女性委員組織役員が各市町長を巡回し、女性登用を嘆願し、県全体の女性委員数が増加した事例や、この事例を参考に滋賀県が同様の巡回をした話などがありました。

最後に、女性委員を増やすアイデアについて参加者らで意見交換をしました。参加者からは、「女性委員募集中のチラシ作り」や「農業委員が何をしているか知ってもらう」、「自分らの活動を見て、私にもできそうと感じてもらおう」など、女性が手を上げやすい環境作りについて多く意見が出ていました。

(4) 全国農業委員会女性協議会総会への出席

東京都の主婦会館で1月9日、第10回全国農業委員会女性協議会総会が開かれ、大西会長と高尾副会長が出席しました。

今年度の収支決算を承認したほか、来年度の活動計画及び収支予算について協議しました。

(5) 女性の農業委員会活動推進シンポジウム(中止)

大西会長と高尾副会長が3月5日、東京都の砂防会館で開かれる「令和元年度女性の農業委員会活動推進シンポジウム」に出席予定でしたが、コロナウイルスの感染拡大防止のため、開催中止となりました。

全国農業委員会女性協議会ベストレシピグランプリ 豊岡市農業委員会が全国2位

全国農業委員会女性協議会は、料理レシピのウェブサイト・クックパッド内の「全国農業新聞公式キッチン」へ投稿したレシピのアクセス数を競うグランプリを実施しています。

今年度は、ひょうご農業委員会女性ネットワークを代表して、豊岡市農業委員会の高尾利美さん、原清美さん、加悦富美恵さんが「葉も皮も

捨てる」とこなし！ヘルシー大根餃子」を応募。エントリーされたレシピは全21品目で、豊岡市はアクセス数2047という結果となり、総アクセス数全国第2位に輝きました。

来年度の募集は令和2年5月中旬頃から始まります。これまでは第2回目の女性委員交流研修会で応募するレシピを決めていましたが、コロナウイルスの関係で開催を中止しましたので、改めてレシピを決めさせていただきます。

豊岡市のレシピはクックパッドのホームページで見ることができず (<https://cookpad.com/recipe/5765586>)

女性農業委員・推進委員数の状況

令和2年2月28日時点での県内女性農業委員・農地利用最適化推進委員数は、前年の調査（平成31年2月28日）から3人減って、57人となりました。

女性農業委員・推進委員が在任する農業委員会数は32委員会（全体の80%）で、前年より1委員会増。2人以上の女性委員が在任する農業委員会数は16委員会（同40%）となり、前年より1委員会減となりました。令和2年度は25委員会が改選となります。女性委員の登用促進を働きかけるとともに、在任中の女性委員



葉も皮も捨てるこなし！ヘルシー大根餃子



ベストレシピグランプリで2位に入賞した原委員、加悦委員、高尾委員（左から）

は引き続き委員の継続もしくは後任を探していただくようお願いいたします。男女の境なく、様々な視点による農業委員会活動を実現を目指し、これからも女性委員の登用促進にご協力ください。

寄稿

女性委員として思うこと・考えること

神戸市農業委員会

中西和子



神戸市は北区と西区を中心に、政令指定都市の中でも広大な農地を有しています。4000ヘクタール以上の農地に、水稲・果実・軟弱野菜など、神戸市民の食料を供給しています。

三田市農業委員会

仲畑尋美



農業委員会が新体制に移行し、三田市も女性農業委員をという事で、何も分からないまま委員を受けることになりましたが、農業委員への女性の登用は複数人進める必要がある

と改めて実感いたしました。まず、

農業委員の役割は何なのかを勉強する事から始めなければなりません。直売や6次産業化、地域での女性農業者の育成や他所への視察などに取り組むことが大切です。地域活性の為に何か協力できればいいなと考えます。

高砂市農業委員会

北原知子



農業都市神戸市の農業委員・推進委員は50名以上任命されていますが、女性は2名しか選出されていません。次期改選の折には、北区・西区2名ずつでも選出されれば良いと思います。男社会まっただ中です。

高砂市の農業委員を拝命して2年半が経ちました。今後の農政について発言する機会があり、山林や農地、ため池を地域資産として未来の子ども達に継承していけるようにとの思いを込めて何点か提言しました。しかし、問題の解決には縦割り行政の壁が。

令和が意味する美しい調和。かけがえのない農地を守るために行政が調和され、今年7月の委員募集でも1名女性委員が誕生しますように願っています。

小野市農業委員会

藤尾淳子



私が農業委員になって、早いもので5年近くになろうとしています。

女性農業委員だからどうか特別であるとか、そういったことは感じませんが、あえてメリットを挙げるとすれば、女性の方がより身近にそして少しでも関心を持って頂けることではないかと思えます。それは農業者や議員さんたちにも言えると思います。そう思っただけで頂けるといっても、頑張っていきたく思います。

加西市農業委員会

竹内百合子



女性農業委員とあってから、まだ2年足らずで、まだまだ勉強する事がたくさんあると感じております。自身が農業をしながら今の状態、あるいは向上させて続

けていくには相当な労力も必要で、また、放棄されたほ場を目にするとかこの土地がうまく活用されるように願うばかりです。若者の地元離れも多く、高齢者のみでの農作業も少なくありません。若者並びに女性がより良い環境で仕事ができるよう私達も導いていきたいです。

加西市農業委員会

水田加代子



まったく農業に関係がない商家に生まれ育ち現在に至ります。「寝耳に水」の推薦で農業委員になり、学ぶ1年半でした。

20年来、市街地活性化に取り組み、空き家解消のための活動もしてきました。その時、地元の野菜を使った野菜まんじゅうを菓子店の厨房を借り、作り、販売した経緯もあります。現在は観光客向けや地域コミュニティとしてカフェを開いています。今後、農業と町の活性化をどう継いでいくかを模索中です。

多可町農業委員会
畑中淳子 宮崎八千代 遠藤輝美



農業人口の高齢化、鳥獣被害、農業に対する意識の低下（若者世代）、ここ多可町にも時代の流れが押し寄せています。そんな中、17名の農業委員中3名が女性です。女性委員

として特別な活動はしていませんが、日々誠実に取り組んでいる事、また、お互いを尊敬し、結束力の強さは自負できます。今後もお互いの力を貸し借りしながら、この多可町において、多くの可能性を引き出せるよう努力したいと思います。

姫路市農業委員会

橋本 静枝



我が国への観光客が年々増加し、「和食」を楽しみにしている人も多く

います。

日本料理には、ダシから手間をかけ、見た目はもちろん、細部まで手を抜かない日本人ならではのこだわりやおもてなしの心があるからではないでしょうか。

現在、農業のさらなる自給率

アップに取り組む中で、和牛・ブランド米・日本酒など、グローバルに認知度を上げています。オリンピックも間近に控え、世界中の人々に家庭料理を紹介する絶好の機会でもあります。後世へ漬物や味噌作りなど、先人の魂を伝承することは私達の役割ではないでしょうか。

アップに取り組む中で、和牛・ブランド米・日本酒など、グローバルに認知度を上げています。オリンピックも間近に控え、世界中の人々に家庭料理を紹介する絶好の機会でもあります。後世へ漬物や味噌作りなど、先人の魂を伝承することは私達の役割ではないでしょうか。

福崎町農業委員会

田中 初美



私の地域も高齢化が進み、遊休農地の発生防止に真剣に取り組む必要があります。現在は、農地を貸してほしいという若い人も現れており、協議が前向きに進んでいるところではあります。

また、私は農業委員会の前に行く現地調査が好きです。一緒に行く委員さんは、ベテランの方ばかりなので、厳しい意見も出るし、地域のことにもよく知っておられて、時間をかけて調査することもあり、勉強になることが多々あるからです。

赤穂市農業委員会

松田 静



赤穂市の農家は経営作物が様々で、農業経営のパートナーとして

活躍している女性の場が少ない状況でした。そこで、女性農業委員を中心に赤穂市農村女性グループを立ち上げました。7月に行った交流会では、農産物を市内で販売する場所が少ないことが課題となりました。12月には青空市に参加し、消費者、業者との交流を図りました。1月には、淡路島の先進農家の視察、研修交流会を行いました。

たつの市農業委員会

岩田 きん子



東海・近畿ブロック女性農業委員会研修会が、11月28日京都市で開催されました。農業データを参考に農

催され、にいがた女性農業委員会の笠原尚美会長による講演「女性の力で進めよう！人・農地プラン」を開きました。農業データを参考に農家数、作付面積、収量、5年後・10年後の後継者の有無、体調、家庭内の変化、機械の故障等を、自分の地域でも考えていきたいです。

たつの市の伝統文化、自然景観、

地域農業を次世代に引き継いで欲しいと思います。

宍粟市農業委員会

尾崎 純子



現在、農業を中心に頑張っている昭和時代の農業従事者がど

んどんりタイヤしています。若者の中では、農村への憧れを持ち、農業を志したい人もいるはずですが、その受け皿があまりなく、農業に対する将来的な不安が大きく、第一歩が踏み出せないのだと思います。自然の中で心豊かな生活を求めている若者に放棄地を活用してもらい、活気のある農業を長く続けてもらえればいいのですが、農を取り巻く問題は厳しいです



豊岡市農業委員会

高尾利美



急速な過疎化・高齢化の中、豊岡市でも農地の集積・集約化が

進められています。全国女性協議会では、「農業の規模拡大によって農地を守ることが農村の疲弊に拍車をかけることになる」との声もあります。

今年度、豊岡市女性農業委員3名は、若手女性農業者と共に食育（食農）かるた作成のため、改めて伝統食について学んでいます。今後、地域伝統食継承の一翼を担えればと思っています。

新温泉町農業委員会

松元けい子



昨年8月に、新温泉町照来地区でスマート農業研修会が実施さ

れました。リモコン操作の草刈機が畦畔や法面を除草する実演会です。ドイト製と日本製の2種類が軽々と草を刈る様子を、多くの農家が関心高く見学していました。棚田を多く持つ当町では、草刈作業はきつく、農家の大きな負担となっています。しかし、機械の

導入には価格面が課題です。いろいろな手立てを考え直しながら労働改善が図れないか、それが農地の維持継続に繋がると考えています。

丹波篠山市農業委員会



最近参加する女性委員の研修会でワークショップ形式が用いら

丹波篠山市農業委員会
大西富美子



女性委員会登用促進研修会が、1月8日から9日まで、東京で

開催されました。女性委員が増えれば農業委員会が変わる。

地域にある女性農業者などの関係団体に、候補者の推薦を積極的

に求め、要望書の送付や巡回を県の農業委員会組織を通じて実施するほか、現職の女性委員さんについて、自ら候補者として応募を

丹波篠山市農業委員会

倉掛みどり

最近参加する女性委員の研修会でワークショップ形式が用いら

れています。これは、女性ならではの視点でアイデアを出し合い、話し合い、その中で気づいた「こまっ

た」、「こうなるといいね」「こうしたい」などに向き合い、女性委員の間で共有することで、やる気を起こし、直面する問題解決の糸口につながる良い研修となっています。

今後、機会があれば、この手法をもっと学び、活用できればと思う次第です。

丹波篠山市農業委員会

酒井菊代



丹波篠山市は、農都宣言をしているほど、農業やそれを取り巻く環境

問題について熱心に取り組んでいます。人口の減少はどこも同じですが、美しい里山を守りつつ、農業が続けたいけるよう、農業委員として意見を発信していきたいと思っています。また、女性の意見を広く聞いて、ともすれば男性だけの考えで進んでしま

しての役割が果たせたらとも思っています。

丹波篠山市農業委員会

湊友加



丹波篠山市農業委員会は、農業まつりで特産物の山の芋を使った「霧芋

ご飯」を配布しています。食育推進大会では、黒豆茶と秋番茶の飲み比べ等、イベントには積極的に参加しています。

月1回、担当地域の農地パトロールに取り組むことで、地域の方の思いを直接聞くことができます。その思いを受け止め、農地を有効に活用していただけるよう、農業委員・農地利用最適化推進委員、地域の方々と協力していきたいと思っています。

ひょうご農業委員会

女性ネットワークについて

ひょうご農業委員会女性ネットワーク(旧ひょうご女性農業委員ネットワーク)は、平成19年3月発足)は、県内女性農業委員・農地利用最適化推進委員の連携組織として、相互研さん及び情報交換、男女共同参画の推進等を目的に活動しています。

役員は会長・大西富美子(丹波篠山市農業委員会)、副会長・高尾利美(豊岡市農業委員会)、同・坂田順子(加古川市農業委員会)。